

一般社団法人日本環境教育学会  
第30回年次大会（山梨）

「自然と教育　・ ・ 初心へ」

## 研究発表要旨集

2019年8月23日(金)～8月25日(日)

主催：一般社団法人日本環境教育学会

会場：北杜市立甲陵高等学校 他

## 一般社団法人日本環境教育学会第30回年次大会開催にあたって

大会実行委員長 高田 研（都留文科大学）

学会30周年を記念する大会を、ここ八ヶ岳山麓北杜市で開催いたしますことは、我々山梨県在住の実行委員として光栄に存じます。全国より予想を越えてたくさんの皆さまにお出でいただきますこと、委員会を代表して感謝と御礼を申し上げます。

日本環境教育学会第1回大会が東京学芸大学で開催される2年前の1987年。この北杜市清里に自然保護教育、野外教育の指導者、大学や研究機関の研究者、小中高校の先生が当時はよくわかっていなかった「環境教育」というキーワードで集まり、日本の環境と教育のあり方について夜を徹して話し合いました。（現在も続いている清里フォーラム、現：清里ミーティング）そこにはその後、日本環境教育学会設立に携わった人々も多数参加していました。それ以降、この自然に恵まれた北杜市は自然をテーマにした環境教育に関わる人々の実践交流の場として拓かれていきました。

ヘンリー・デヴィッド・ソロー（1817～1862）は「GROW WILD」、「人間に備わった自然に対する感性を育むこと」の重要性を指摘します。自然は、一般に穏やかで癒されるものをイメージしますが、学会発足6年目の1995年、大地が根底から揺さぶられる阪神淡路大震災を我々は経験します。以後、頻繁に起こる大災害に対してレジリエンスを高めて持続可能な社会を創るため、学会では「災害と教育」を環境教育の重要な柱としました。また2011年の東日本大震災では福島で原発事故が起こります。拡散した放射能の被害、それに対する原因企業や政府の対応は40年の時間をひき戻し、それは人災としての公害問題を彷彿とさせるものでした。

現在学会では「原発」と「公害」に関わる2つの研究会が開かれています。本大会の「自然と教育」というテーマは、このように多様性に満ちた自然、そこに生きる人間の関わりを視座とするものです。

30周年を記念し、H.ソローの研究者であり山梨県、岩手県をフィールドに長年ナチュラリストとして活動されている今泉吉晴先生にご講演をいただきます。またシンポジウムにおきましては各地域で学会役員として運営に携わられておられる方々に御登壇いただき、これから30年の環境教育の展望を語っていただきます。

本大会の企画運営には、会場をお引き受けいただいた北杜市立甲陵高等学校、地元教育委員会や山梨環境教育小中学校研究会、国際自然大学校、キープ協会のみなさんに参画いただいています。そして環境教育、野外教育施設へのエクスカージョンや先生を対象とした研修会、先生や子どもたちの研究発表会を並行開催することより、教育現場の実践感覚と研究を結ぶ記念大会といたしました。

ご参集いただきました皆さまと、この八ヶ岳山麓の自然の中で環境教育の「初心」に戻り、これからを考える良い時間となれば幸甚です。

<一般社団法人日本環境教育学会第30回年次大会実行委員会名簿>

(○=各部門のリーダー)

- 大会実行委員長：  
高田研（都留文科大学）
- 大会事務局長：  
増田直広（キープ協会）
- 会計：  
○秦範子（都留文科大学）、浜泰一（東京大学）
- 研究発表：  
○神長唯（都留文科大学）、河村幸子（東京農工大学大学院）、増田直広（キープ協会）
- 企画：  
○古瀬浩史（帝京科学大学）、飯沼慶一（学習院大学）、丸茂哲雄（山梨環境教育小中学校研究会）  
進藤俊幸（北杜市立須玉小学校）、埴原志津香（笛吹市立八代小学校）、高田研（都留文科大学）
- 広報、環境教育メッセ：  
○鳥屋尾健（キープ協会）、原和之（北巨摩教育会館）、柳川真澄（キープ協会）
- 参加者交流、懇親会：  
○川嶋直（日本環境教育フォーラム）、三木柚香（東京大学大学院）、  
加藤超大（日本環境教育フォーラム）、中山孝志（キープ協会）
- 会場：  
○小尾和正（北杜市立甲陵高等学校）、小澤郁子（北杜市立長坂小学校）、  
菊池稔（東京農工大学大学院）、鷺田晋（国際自然大学校）、増田直広（キープ協会）
- エクスカーション：  
○鷺田晋（国際自然大学校）、鳥屋尾健（キープ協会）、柳川真澄（キープ協会）
- 国際交流：  
○田開寛太郎（松本大学）、高橋宏之（千葉市動物公園）

＜第30回年次大会日程＞

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月23日 (金)		各種委員会					理事会		社員総会				
												若手会員の集い	論文の書き方セミナー
8月24日 (土)	大会 受付	口頭発表		昼食	口頭発表								
		ポスター発表(コアタイム12:00~12:45)											
					国際交流会								
		教員ワークショップ											
		山梨県高校生特別研究発表会											
		環境教育メッセ											
8月25日 (日)	大会 受付	口頭発表		昼食	口頭発表								
		ポスター発表(コアタイム12:00~12:45)											
		英語報告部会											
		小中学生環境教育等発表大会		小中教員実践交流大会									
		環境教育メッセ											

- ※ 公開シンポジウム、教員ワークショップ、山梨県高校生特別研究発表会、小中学生環境教育等発表大会、小中学校教員環境教育等実践交流大会、環境教育メッセは、会員以外の方も参加できます。
- ※ 教員ワークショップは大会参加費とは別に参加費1,000円が必要です(大会当日会場で徴収します)。

＜開催概要＞

●期間：2019年8月23日(金)～8月25日(日) ※エクスカーションは8月23日(金)および26日(月)

●会場：①口頭発表、ポスター発表、国際交流会、教員ワークショップ、山梨県高校生特別研究発表会、環境教育メッセ、大会企画・公開シンポジウム、会員懇談会、英語報告部会、小中学生環境教育等発表大会、小中教員実践交流大会、常設・特設研究会、自主課題研究(8月24日～25日)

北杜市立甲陵高等学校(JR長坂駅より徒歩15分、中央道長坂ICより車で5分)

〒408-0021 山梨県北杜市長坂町長坂上条2003

<http://www.yamanashi-koryo-h.ed.jp/index.html>

②各種委員会(8月23日)

北巨摩教育会館(JR韮崎駅より徒歩10分) 〒407-0015 山梨県韮崎市若宮2-6-26

③理事会、社員総会、若手会員の集い、論文の書き方セミナー(8月23日)

韮崎市市民交流センターニコリ(JR韮崎駅前) 1階 5・6・7会議室

〒407-0015 山梨県韮崎市若宮1-2-50

④懇親会(8月24日)

魚光会館(JR長坂駅前) 〒408-0021 山梨県北杜市長坂町長坂上条2575

●主催：一般社団法人日本環境教育学会(第30回年次大会実行委員会)

●協力：北杜市教育委員会、北杜市立甲陵高等学校

●後援(予定)：文部科学省、環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省、山梨県、北杜市、山梨県教育委員会、韮崎市教育委員会、ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター

●一般社団法人日本環境教育学会ウェブサイト <http://www.jsfee.jp/>

●一般社団法人日本環境教育学会第30回年次大会ウェブサイト <http://www.jsfee.jp/members/meeting/367>

<北杜市立甲陵高等学校へのアクセス／8月24日(土)～25日(日)>

## 甲陵高校へのアクセス

- 8月24日(土)と25日(日)の8:00～8:30に、JR長坂駅→甲陵高等学校への送迎車が出ます。また、24日(土)の17:30過ぎに、甲陵高等学校→懇親会会場への送迎車が出ます。マイクロバスやワゴンのため一度に乘れる人数に限りがありますが、ご希望の方はご利用ください。散歩がてらの徒歩移動もお勧めです。JR長坂駅→甲陵高等学校までは、徒歩15分です。
- 上記以外の時間帯は、徒歩やタクシーでご移動ください。
- JR長坂駅から徒歩移動の方は「立志の道」出入口から校内へ進んでください(校内への近道)。
- 自家用車の方は、甲陵高等学校の校庭に車を停めてください。グラウンド状態不良時は、長坂中学校南駐車場となります(その場合は誘導します)。

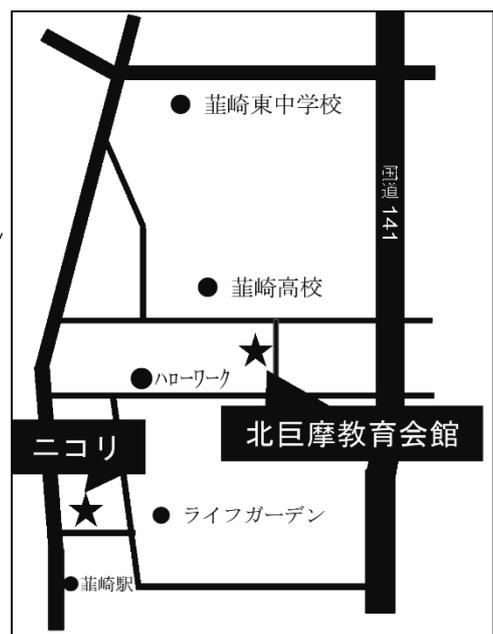
JR長坂駅より徒歩15分  
長坂ICより車で5分

<北巨摩教育会館へのアクセス／8月23日(金)>

- JR 葦崎駅から徒歩10分です。
- 自家用車の方は、下記ウェブサイトなどを参照してください。  
駐車場(無料)があります。  
会館周辺の道路が狭いので、運転にはご注意ください。  
<https://www.mapion.co.jp/phonebook/M13022/19207/21930050435/>

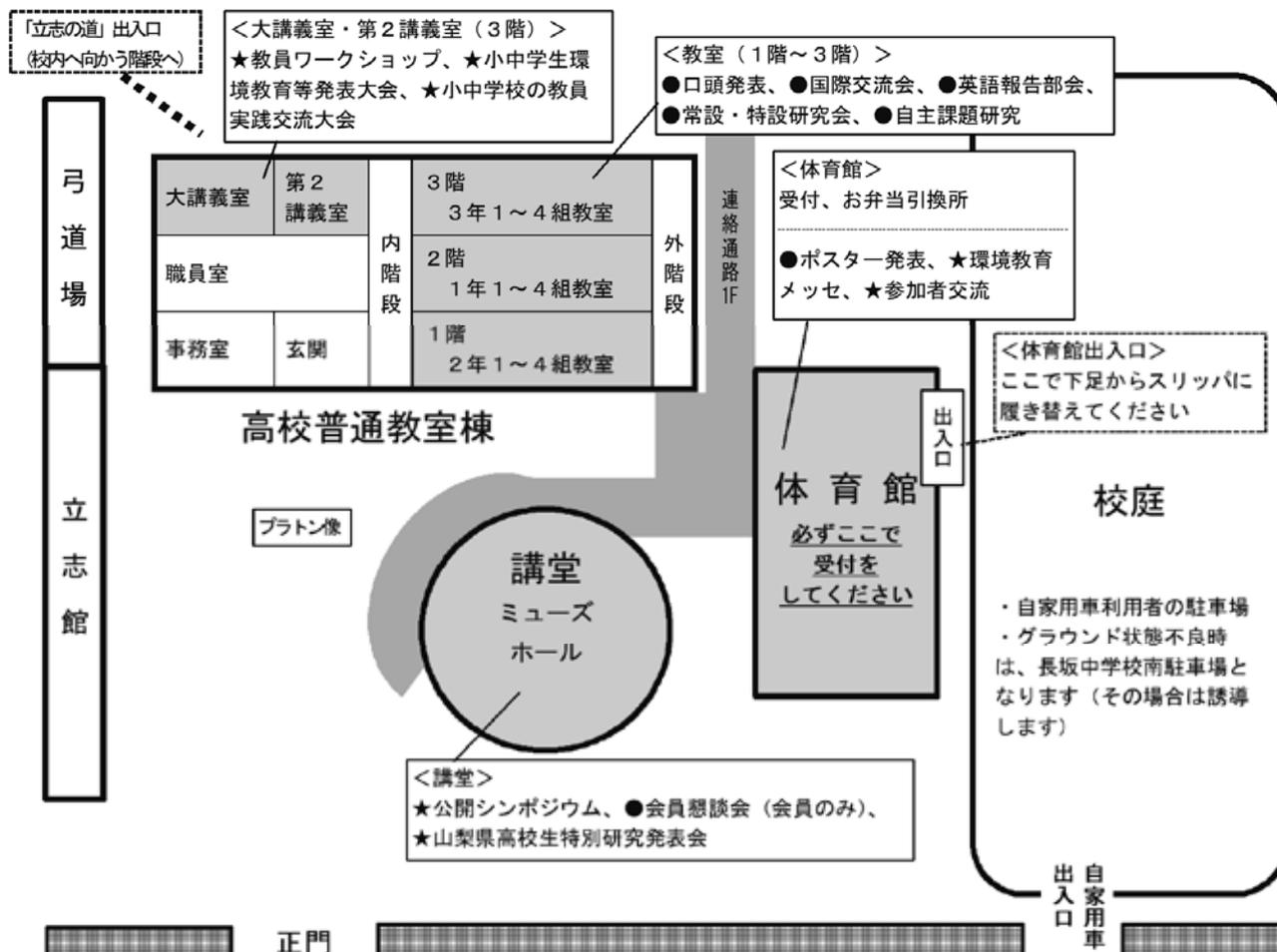
<葦崎市市民交流センターニコリへのアクセス／8月23日(金)>

- JR 葦崎駅前です(徒歩1分)。
- 自家用車の方は、ニコリの立体駐車場をご利用ください。  
4時間まで無料、以降30分増す毎に100円、1日最大1,000円、  
22:30～翌朝6:30までの入出庫できません
- 詳細は下記ウェブサイトを参照してください。  
<http://www.nirasaki-nicori.jp/access.html>



- ・ 大会受付は、8月24日(土)～25日(日)、北杜市立甲陵高等学校の体育館に設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- ・ 校舎内へ入る際には、体育館出入口で下足からスリッパに履き替えてください。
- ・ 下図凡例 ●=会員と大会登録をした非会員が参加可能、★=どなたでも参加可能

<北杜市立甲陵高等学校 校内配置図>



<北杜市立甲陵高等学校 高校普通教室棟配置図>

3階	<大講義室> 教員ワークショップ、小中学生発表、小中教員交流	<第2講義室> 教員ワークショップ	内階段	<3年1組> 口頭発表D 常設特設研究④	<3年2組> 口頭発表E 常設特設研究⑤	<3年3組> 口頭発表F 英語報告部会 常設特設研究⑥	<3年4組> 国際交流会 常設特設研究⑦	外階段
		職員室		<1年1組> 口頭発表A 常設特設研究① 自主課題研究①	<1年2組> 口頭発表B 常設特設研究② 自主課題研究②	<1年3組> 口頭発表C 常設特設研究③	<1年4組> 大会本部	
	1階	事務局		玄関	<2年1組> 学会参加者 休憩室	<2年2組> 学会参加者 休憩室	<2年3組> 参加者荷物置場	

<北杜市立甲陵高等学校 会場のご案内>

		8月24日(土)			8月25日(日)			
		9:00 ~12:00	12:45 ~13:30	14:00 ~17:30	9:00 ~12:00	12:45 ~13:30	14:00 ~16:00	16:15 ~18:15
3 階	3年1組	口頭D	口頭D		口頭D	口頭D	常設特設 研究会④ (国際)	
	3年2組	口頭E	口頭E		口頭E	口頭E	常設特設 研究会⑤ (評価)	
	3年3組	口頭F			英語報告 部会		常設特設 研究会⑥ (SDGs)	
	3年4組	国際交流会 12:00~13:45					常設特設 研究会⑦ (災害)	
	大講義室	教員ワークショップ① 9:15~13:45			小中学生 発表大会 9:00~11:30	教員実践 交流大会 11:45~13:45		
	第2講義 室	教員ワークショップ② 9:15~13:45						
2 階	1年1組	口頭A	口頭A		口頭A	口頭A	常設特設 研究会① (学校)	自主課題 研究① (質的)
	1年2組	口頭B	口頭B		口頭B	口頭B	常設特設 研究会② (3.11)	自主課題 研究② (観光)
	1年3組	口頭C	口頭C		口頭C	口頭C	常設特設 研究会③ (公害)	
	1年4組	大会本部						
1 階	2年1組	大会参加者休憩室						
	2年2組	大会参加者休憩室						
	2年3組	参加者荷物置場						
	2年4組	海外参加者休憩室						
講 堂		高校生 特別研究		シンポジ ウム・会 員懇談会				
体 育 館	受付	受付						
	ポスター	ポスター発表=両日共に9:00~13:45、コアタイム=両日共に12:00~12:45						
	メッセ	環境教育メッセ 24日=9:00~16:00、25日=9:00~15:00						
	交流	参加者交流 24日=9:00~16:00、25日=9:00~15:00						

## ＜参加者の皆様へ＞

### 1. 大会全般について

- 大会受付は、8月24日(土)～25日(日)、北杜市立甲陵高等学校の体育館に設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- 会場内では、大会受付でお渡しする参加票（名札）を必ず首から提げるようにしてください（一般入場者の方と名札によって判別いたします）。
- 北杜市立甲陵高等学校の校内は備付けのスリッパをご利用いただきます。下足は受付を設置する体育館の外に置いていただきます。他の方と混同しないように、お名前を書く札とクリップをご用意します。
- 大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- 北杜市立甲陵高等学校校内は全面禁煙となっています。校内に喫煙スペースはございませんので、予めご了承ください。

### 2. 食事について

- 8月23日(金)の昼食は、韮崎駅周辺の飲食店をご利用ください。 韮崎市市民交流センターニコリ内にも、カフェコーナーがあります。また、ニコリ内のイベントスペース／オープンスペースは飲食可能です。
- 8月24日(土)～25日(日)は、北杜市立甲陵高等学校内に食堂がありませんので、昼食は各自ご持参ください。 会場内の休憩室として開放する教室で召し上がってください（学会参加者＝2年1組・2組、海外参加者＝2年4組）。昼休憩時（12：00～12：45）は、口頭発表会場（1年1組・2組・3組・3年1組・2組・3組）での飲食も可能です。ゴミは各自持ち帰り、もしくは校内のゴミ箱をご利用ください。
- 大会申込み時にお弁当を注文された方は、受付でお渡しする参加証に付いている「お弁当引換券」と代金（1個800円）を業者に渡して、お弁当を受け取ってください。お弁当は、11：45～13：00に体育館でお渡しします。食べ終わった容器も体育館の所定の所に戻してください。

### 3. 会場について

- 4ページ各会場へのアクセスを参考にお越しくください。
- 自家用車でのご来場の方は、各施設の駐車場に車を停めてください。北巨摩教育会館と北杜市立甲陵高等学校は駐車無料、ニコリは4時間まで無料、以降は有料となります。なお、北杜市立甲陵高等学校の駐車場はグラウンド状態不良時には、長坂中学校南駐車場となります（係員が誘導します）。
- 参加者の休憩室を設けます（学会参加者＝2年1組・2組、海外参加者＝2年4組）。休憩室には麦茶を用意しますので、ご希望の方はマイカップをご持参ください。校内には自動販売機や冷水器もあります。また、2年3組の教室をキャリアバッグなどの大きな荷物置場としてご利用ください。ただし、管理するスタッフは張り付きませんので、貴重品等は必ず各自が保管してください。
- 大会期間中、会員の皆さんが持ち込まれた印刷物やチラシ等の配布を目的とした机を、北杜市立甲陵高等学校体育館に設置いたします。資料等の配布を希望する方は、こちらのスペースをご利用ください。なお残部は、8月25日の15：00までに撤収を完了してください。この時刻を過ぎて残っている資料は、実行委員会にて処分いたします。なお、事前送付の受付や保管、郵送等による返却はできませんので、資料類はご持参ください。
- 北杜市立甲陵高等学校には、Wi-Fi スポットなどインターネットに接続できる設備はありませんので、ご注意ください。

### 4. その他

- JR 韮崎駅（8月23日会場）には、みどりの窓口と指定席券売機があります。
- JR 長坂駅（8月24日・25日会場）には、近距離用券売機はありますが、みどりの窓口と指定席券売機、ロッカーはありません。
- JR 長坂駅から100～200mの圏内にコンビニエンスストアが2件あります。

## <口頭発表について>

日時：8月24日(土) 9:00~12:00、12:45~13:30、8月25日(日)の9:00~12:00、12:45~13:30  
会場：北杜市立甲陵高等学校 1年1組・2組・3組・3年1組・2組・3組教室(2階および3階)

### 1. 発表時間

1件15分(発表12分、質疑3分)で進行いたします。総合討論(10分)後の休憩(5分)では、座長交代やコンピュータへのデータ取り込み等、円滑な運営にご協力ください。発表中の合図は次の通りです。

第1鈴：10分  
第2鈴：12分(発表時間終了です。直ちに発表を終了してください)  
第3鈴：15分(質疑終了です。直ちに次の発表者と交代してください)

- ・ 発表者は、1つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- ・ 発表者は、はじめに発表タイトルと発表者名をご紹介ください。
- ・ 質問者は、はじめに氏名と所属を述べてください。
- ・ 発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。
- ・ 総合討論では、質問や討論が特定の発表者の発表内容に偏らないよう配慮してください。

### 2. 発表機材について

- ・ 各教室に設置済みのPCを使用してください。PowerPoint(Windows PC)が使用できます。
- ・ PCの操作は発表者の責任で行ってください。持ちこみPCを利用した発表はできません。
- ・ PowerPointのデータは、USBメモリで当日ご持参ください。発表直前のデータ操作はトラブルの原因になりますので、ご自身の発表があるセッションの開始前(口頭発表開始時刻前、もしくは前のセッションの総合討論の時間中)に、必ず会場備え付けのPCのデスクトップ上にある各セッションのフォルダにコピーしておいてください。

#### ※ ウィルスチェックについて(重要)

USBメモリを媒介にしたウィルスの被害防止のため、会場に設置してあるPCには大変厳しいウイルスチェックソフトがインストールされています。もし持参したUSBメモリに、何らかのウィルスが入っている場合、会場のPCにファイルを移動することはできません。その場合、研究発表要旨のみで発表いただくことになります。必ず事前に、各自で最新バージョンのウィルス対策ソフトで、持込みをするUSBメモリをチェックし、安全を確認してください。USBメモリ内には、発表用のファイル以外のものは入れないようご注意ください。

#### ※ 口頭発表の写真撮影について

口頭発表のスライドなどの撮影不可の発表者は、ご自身で発表前にその旨お伝えください。

### 3. 座長の皆さまへ

座長(司会者)はセッション全体を担当していただきます。複数の関連発表とその後の総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。また、討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

### 4. 英語報告部会について

本大会では、8月25日(日)の10:15~12:00に、口頭発表・発表要旨・質疑応答・総合討論のすべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します(15ページ参照)。海外からの参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加いただき、盛り上げていただければ幸いです。

### <ポスター発表について>

日時：8月24日(土) 9:00~13:45、8月25日(日)の9:00~13:45

(コアタイム=両日共12:00~12:45)

会場：北杜市立甲陵高等学校 体育館

### スペース、掲示・撤収など

- ・ ポスターの展示スペースは、1件につき A0 サイズ1枚です。(縦：1189mm×横：841mm、模造紙サイズ<1090mm×790mm>も可)
- ・ 発表者は、24日(土)の9:00までに所定の位置に各自掲示し、25(日)の13:45~15:00に取り外して撤収を完了してください。
- ・ この日程で対応いただけない場合は、あらかじめ大会事務局までご相談ください。
- ・ 発表者は質疑応答のため、24日か25日のどちらか1日のコアタイムには、ポスターの前で待機してください。両日ともご対応いただけると、より活発な情報交換がなされます。コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。
- ・ ポスター貼り付け用の画鋏とテープは、大会実行委員会で準備いたしますので、それらをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- ・ 撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

### ※ ポスター発表の写真撮影について

発表用ポスターの撮影不可の発表者は、ご自身でその旨掲示してください。

### <自主課題研究>

日時：8月25日(日) 16:15~18:15

会場：北杜市立甲陵高等学校 1年1組・2組教室(2階)

#### ①質的研究法を学ぶ6~質と量を融合する~ <1年1組教室>

○高橋宏之(千葉市動物公園)・長濱和代(目白大学)・三島らすな(明治大学大学院)・園田陽一(株式会社地域環境計画)・河村幸子(東京農工大学)・須田玲子(早稲田大学大学院)・小堀武信(日本環境教育フォーラム)・浜泰一(東京大学)

#### ②観光の教育力と環境教育(6) <1年2組教室>

○大島順子(琉球大学)・久高将和(一般社団法人やんばるビジョン)

※自主課題研究の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。終了時間は厳守でお願いします。

### <大会参加者向けイベント>

#### ●若手会員の集い ※詳細は14ページを参照してください

日時：8月23日(金) 17:00~18:10/会場：蕪崎市市民交流センターニコリ 1階 5・6・7会議室

#### ●論文の書き方セミナー ※詳細は15ページを参照してください

日時：8月23日(金) 18:15~20:00/会場：蕪崎市市民交流センターニコリ 1階 5・6・7会議室

#### ●会員懇談会

日時：8月24日(土) 16:30~17:30/会場：北杜市立甲陵高等学校 講堂

#### ●懇親会

日時：8月24日(土) 18:00~20:00(受付17:30~)/会場：魚光会館(長坂駅前)  
※会員諸氏からのお酒等の差し入れを大歓迎いたします。会場まで直接ご持参ください。

#### ●常設・特設研究会

日時：8月25日(日) 14:00~16:00

会場：北杜市立甲陵高等学校 1年1組・2組・3組・3年1組・2組・3組教室(2階および3階)

- ① 学校環境教育研究会 <1年1組教室>
- ② 「3.11以後の福島を考える」研究会(地域環境教育研究会) <1年2組教室>
- ③ 「公害教育」研究会(地域環境教育研究会) <1年3組教室>
- ④ 環境教育国際共同研究会 <3年1組教室>
- ⑤ 環境教育プログラムの評価研究会 <3年2組教室>
- ⑥ 「SDGsの教育」研究会 <3年3組教室>
- ⑦ 緊急プロジェクト「災害と環境教育」 <3年4組教室>

#### ●国際交流会 ※詳細は16ページを参照してください

日時：8月24日(土) 12:00~13:45/会場：北杜市立甲陵高等学校 3年4組教室(3階)

韓国、台湾、北米、オーストラリアの各環境教育学会の最近の取り組みを紹介すると共に、環境教育研究のネットワークの強化と国際共同教育実践の可能性を探るための国際交流ワークショップを行います。簡単な逐次通訳・サポートがあります。昼食は持ち寄り、お茶やお菓子は準備いたします。

#### ●エクスカージョン

下記3つのエクスカージョンを開催します。詳細と申込方法は、年次大会ウェブサイトをご覧ください。

##### A-1 国際自然大学校 冒険教育プログラム体験/北杜市長坂町日野春

日時=8月23日(金) 13:00~15:00 定員=15名 参加費=1,000円

グループで課題に挑戦し、協力と信頼を学ぶ体験プログラム

##### B-1 キープ協会 施設見学(国際交流委員会と共同実施)/北杜市高根町清里

日時=8月26日(月) 9:00~11:30 定員=20名 参加費=500円

森の中の保育園、研修施設、自然歩道、環境教育関連施設を見学

##### B-2 キープ協会 自然体験型環境教育プログラム体験/北杜市高根町清里

日時=8月26日(月) 13:00~15:00 定員=20名 参加費=1,000円

五感と科学を通して、自然からの気づきを得る環境教育プログラム

<一般公開イベント> ※会員以外の方も参加できます。

●大会企画・公開シンポジウム「自然と教育 ・ ・ 初心へ」

日時：8月24日(土) 14:00~16:30/会場：北杜市立甲陵高等学校 講堂

第1部：基調講演「環境教育とは生き方の提案」

演者：今泉吉晴（都留文科大学名誉教授/動物行動学者）

世界経済は、人と野生動物に異変をもたらした。都市公園には人を避けない野生動物が出現し、人との交流が常態となった。一方で動物園の野生動物が常動行動などの非適応を多発させている。動物行動学などの科学は現象を把握するだけで、解答は示せない。環境教育とは、ヒトという生物種の成員である一人一人が、自然と社会との交流を通して自己形成していく日々からえた解決策の提案である。古代の哲学者からソロー、シートン、論理実証主義者まで、通覧を試みる。

第2部：全員参加型フリップ方式パネルディスカッション「環境教育これからの30年を考える」

パネラー：中村和彦（日本環境教育学会事務局長、東京大学大学院農学生命科学研究科助教）

二ノ宮リムさち（東海大学准教授）、能條歩（北海道教育大学岩見沢校環境教育学研究室教授）、  
原賀いずみ（北九州インタープリテーション協会代表）

コーディネーター：高田研（日本環境教育学会第30回年次大会実行委員長、都留文科大学教授）

●教員ワークショップ

日時：8月24日(土) 9:15~13:45/会場：北杜市立甲陵高等学校 大講義室および第2講義室（3階）

参加費：各1,000円（会場で徴収します）

①KP法とえんたくんのスキル講習/会場：大講義室

KP法とえんたくんの開発者である、日本環境教育フォーラム理事長の川嶋直さんから、直接この2つのスキルを学ぶワークショップです。KP法は「紙芝居プレゼンテーション法」の頭文字をとったもの。コピー用紙にキーワードを書き、黒板やホワイトボードに10数枚の用紙を貼りながら十数分でプレゼンテーションをしていく手法です。

えんたくんは「日本環境教育フォーラム清里ミーティング2013」で誕生したコミュニケーションツールです。直径1mのダンボール板を円座に座った4~6名の膝に載せ、同じ直径のクラフト紙に話されたキーワードを書きながら対話していく方法です。いずれも教室で教科を問わず使える方法を、実習を通して学びます。

定員：40人 講師：川嶋直（日本環境教育フォーラム理事長）

②SDGsを考えるワークショップ「SDGs×LEGO：わたしとSDGsをつなぐ、はじめの1歩」/会場：第2講義室

2015年9月に国連の「持続可能な開発サミット」で採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、今後の企業活動や教育分野において重要なトピックスです。本プログラムは、この難しいSDGsの世界観を、レクチャーとレゴによって、楽しみながら体感し、1人ひとりの気づきと学びを深めるプログラムデザインになっています。

ワークショップでは、レゴ®シリアスプレイ®というメソッドを活用したワークと対話を通してレクチャーのリフレクション（ふりかえり）をすることで、「つながり」から様々な課題を複眼的に捉え直し、SDGsの実現に向けて歩みを進めるきっかけとしたいと考えます。

詳細：<http://junec.gr.jp/sdgs/> 定員：30人 講師：井澤友郭（こども国連環境会議推進協会事務局長）

※①②共要事前申込み：山梨環境教育小中学校研究会 [hokutokannkyou2019@yahoo.co.jp](mailto:hokutokannkyou2019@yahoo.co.jp)

## ●山梨県高校生特別研究発表会

日時：8月24日(土) 9:00~12:00/会場：北杜市立甲陵高等学校 講堂

学会員の口頭発表に並行して、北杜市立甲陵高等学校の在校生および卒業生の研究成果の発表を行います。各発表後には、学会員も加わって質疑応答の時間を取ります。年次大会での口頭発表と同じスケジュールで進行しますので、年次大会参加者も参加可能です。体育館で受付を済ませてから、会場へ移動してください。

### <発表者と発表タイトル>

- 09:00~09:15 趣旨説明
- 09:15~09:45 村木風海：卒業生による研究発表（二酸化炭素回収装置に関する研究など）
- 09:45~09:55 質疑応答
- 10:00~10:15 杉山彩水・田中悠梨・由井望・芦沢さくら・河西真奈・城田稜太・角田舞羽・高塚碩己・落合香乃・森本理斗：生成粒子沈降速度の濃度依存性
- 10:15~10:30 伊藤佑李子・広橋莉々佳：What can we do from Yamanashi? ~防災意識を高めよう~
- 10:30~10:45 鷹野冬吾：山梨県における外来種の及ぼす環境変化
- 10:45~10:55 質疑応答
- 11:00~11:15 佐藤瑞木：モグラの肩甲骨のナゾ
- 11:15~11:30 浅川空・田代敏貴・大柴颯太・小林海翔・栗原信敬・小松蒼門：天然の抗ウイルス剤メチルグリオキサールの合成に関する研究
- 11:45~12:00 質疑応答、まとめ

## ●小中学生環境教育等発表大会

日時：8月25日(日) 9:00~11:30/会場：北杜市立甲陵高等学校 大講義室

小学生・中学生の皆さんが、日常生活での疑問から調べたこと、学校で継続的に調査研究したこと、授業やクラブで学びを発展させたことを発表します。

山梨県内の小中学生による10件の発表を予定しています。発表内容は冊子にして配布予定です。

関心ある方はどなたでも参加いただけます。体育館で受付を済ませてから、会場へ移動してください。

### <発表学校名>

- ・ 早川町立北小学校
- ・ 南アルプス市立芦安小学校
- ・ 北杜市立長坂小学校
- ・ 南アルプス市立敷島北小学校
- ・ 北杜市立須玉小学校
- ・ 北杜市立甲陵中学校

## ●小中学校の教員実践交流大会

日時：8月25日(日) 11:45~13:45/会場：北杜市立甲陵高等学校 大講義室

ESD教育で、山梨県内各校が一番実践しているのは環境に関する教育です。教科指導・総合的な学習の取り組み・児童会や生徒会活動・学校行事等で、先生方が個人やチームとして指導実践した内容を共有し、情報交換する場として交流大会を開催します。

山梨県内外の小中学校教員による6件の発表を予定しています。発表内容は冊子にして配布予定です。関心ある方はどなたでも参加いただけます。体育館で受付を済ませてから、会場へ移動してください。

### <発表学校名>

- ・ 南アルプス市立楡形西小学校
- ・ 杉並区立西田小学校
- ・ 新宿区立戸塚第三小学校
- ・ 北杜市立長坂小学校
- ・ 北杜市立須玉小学校
- ・ 韮崎市立甘利小学校

## ●環境教育メッセ

日時：8月24日(土) 9:00~16:00、25日(日) 9:00~15:00/会場：北杜市立甲陵高等学校 体育館

一般公開プログラムとして、「環境教育メッセ(環境教育見本市)」を開催いたします。環境教育に関する商品や資料の提示、販売の他、各団体・企業の取り組みを紹介していただきます。

### <出展団体(申込み順)>

- ・ 株式会社ニホン・ミック
- ・ 一般社団法人プラスチック循環利用協会
- ・ 公益社団法人日本環境教育フォーラム
- ・ 東京学芸大学環境教育研究センター
- ・ 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
- ・ 関東地方ESD活動支援センター
- ・ 「体験の機会の場」研究機構
- ・ 立教大学ESD研究所
- ・ サントリーホールディングス株式会社
- ・ 一般社団法人農山漁村文化協会
- ・ 包み屋
- ・ 公益財団法人キープ協会
- ・ 一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会
- ・ 動物教材研究所 pocket・近畿大学
- ・ NPO法人はちろうプロジェクト
- ・ 東京書籍株式会社
- ・ 国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)
- ・ 株式会社小学館

※教育出版株式会社は出展取り止めとなりましたが、「事典 持続可能な社会と教育」(編者：日本環境教育学会他、発行：教育出版)は体育館内の学会事務局にて販売します

ベテランも  
若手も  
集まれ!!

ご意見  
求ム!!

2019年度日本環境教育学会第30回年次大会

# 「若手会員の集い」

## 概要

日時：2019年8月23日(金) 17:00~18:10

会場：蕪崎市市民交流センターNICORI(ニコリ)

対象者：  
・若手として何かに関わりたい学会員  
・若手に学会を盛り上げてほしい学会員  
・若手と何かコラボできそうな学会員



申込方法：事前申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。

## プログラム内容

### ① 若手ワーキンググループの活動報告・振り返り

今日までに若手WGの中で出た「学会へのニーズ・期待」などをまとめてご報告します！学会に対する若手学会員の生の声をぜひ聞いてください！

### ② 大会における若手会員の集いの振り返り

2017・2018年度大会における若手会員の集いのプログラム内容やワークショップで出た案を改めてご報告します。参加できなかった方必見です！

### ③ 若手組織に望むことワークショップ

若手会員に期待される役割や、より積極的に参画していけるようなアイデアを考えます！ベテランのみみなさまのご意見もぜひお聞かせください！

## 問合せ先

日本環境教育学会 若手会員の集い 担当：加藤超大  
E-MAIL: kato\_tatsuhiko@jeef.or.jp

<論文の書き方セミナー>

主催：編集委員会、若手組織化検討ワーキンググループ有志

日時：2019年8月23日(金) 18:15~20:00

会場：韮崎市市民交流センターニコリ

対象者：学会誌『環境教育』への投稿を目指す会員、これから論文（修士論文や博士論文等も含む）や報告等の執筆を考えている会員（特に若手会員）。

申込方法：事前申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。

プログラム内容

○学会誌『環境教育』の編集方針について

当学会の編集委員長から、学会誌の査読傾向と対策、投稿区分の基準について説明します。

○論文の書き方 講師：浜 泰一（東京大学）

従来は、学会誌に掲載された論文の執筆者から、論文執筆までの道のりや調査の進め方などの体験談を、主にお聞きしてきました。今年度は趣向を変え、論文とはどんな文章なのか、研究はどのように組み立てるのか等、論文という特殊な文章を書き、完成させるために知っておくべきことについてレクチャーします。

<英語報告部会 English Session>

Date: August 25, 2019 Time: 10:15-12:00 Language: English

Venue: Room 3-3, Hokuto City Koryo High School in Yamanashi Prefecture

Sunday August 25	10:15	10:30	10:45
	<b>David Allen</b> A River Apart: Complexities of an International Border Contamination Study	<b>Yu-Chi Tseng</b> Pilot study of connection with nature scale developed for senior high school student	<b>Han Zhuang</b> The Evaluation Research of Climate Change Curriculum to Promote High-school Students' Nature Connection
Sunday August 25	11:00	11:15	11:30
	<b>Ko-Ning Liang</b> The Evaluation Reserch of Climate Change Curriculum on Senior High-school Students' Environmental Hope	<b>Hyungson Ju</b> Exploring Whole-School Approach for Education for Sustainable Development	<b>Discussion</b>

## 日本環境教育学会 第30回大会 特別企画

A Special Project, The 30th Annual Meeting of  
Japanese Society for Environmental Education



### 国際交流会



International Workshop

**日時:** 2019年8月24日(土) 12時~13時45分

**DATE:** August 24, 2019 (Saturday) 12:00-13:45

**場所:** 北杜市立甲陵高等学校

**VENUE:** Hokuto City Koryo High School

**内容:** 12:00~12:45 ランチ交流会  
(ランチをご持参ください)

12:45~13:45 各国協定学会の環境教育の取組紹介

LET'S

TALK!

Networking with participants

from various countries over lunch & drinks:

Introduction of efforts conducted by Korean,

Taiwanese, North American and Australian societies

for Environmental Education



Pls bring  
your own  
lunch.

- ・飲み物とおやつを準備します。紙コップを用意していますが、マイカップがある方はご持参ください。

We prepare tea and snacks. Please bring your own cup, while paper cups are available.



- ・進行は、日本語と英語を使います。

Language: English and Japanese

簡単な通訳ができる国際交流委員  
がいます。英語が話せなくても、  
お気軽にご参加ください。



みなさんの取  
り組みをご紹  
介ください!

<口頭発表プログラム>

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

8月24日(土) 9:00~9:55

会場	テーマ	9:00~	9:15~	9:30~	9:45~
1年1組 A会場	ESD	[24A01] 比屋根 哲 大阪府池田市における「環境学習」の成立過程	[24A02] 齊藤雅洋 ESD・環境教育研究における地域づくり教育論の有用性と課題	[24A03] 本田裕子 兵庫県豊岡市におけるコウノトリをテーマにした「ふるさと教育」についてー2018年度の取組からー	総合討論
1年2組 B会場	ESD	[24B01] 森 朋子 シビック・アクション促進を目的とした欧米のESDプログラムの分析～デンマークとアメリカ合衆国での事例を基に～	[24B02] 新井雅晶 ユネスコスクール NISHITAのホールスクールアプローチ3年間のあゆみ～教師の取組に対する意識の変容から～	[24B03] 小堂 十 ユネスコスクール NISHITAのホールスクールアプローチ3年間のあゆみ～西田小関係者（保護者・地域）の取組に対する意識の変容から～	総合討論
1年3組 C会場	ESD	[24C01] 元木理寿 教材としてのアニメーションの活用-地理教育から環境教育・ESDへの展開の可能性	[24C02] 村上千里 学校におけるESDを支援するコーディネーターの役割と機能に関する研究	[24C03] 大澤 力 問題解決能力育成を目指すESD研究-幼児教育から小・中・高等学校教育への試み-	総合討論
3年1組 D会場	食関係	[24D01] 野村 卓 Edible Educationを活用したへき地小規模校のESD展開課題	[24D02] 三宅博之 教養特講Ⅳ「若者の食育を考える」の受講を通してみた大学生の食に対する意識の変化	[24D03] 小関一也 産地直売場で実践する環境教育-長野県伊那市の産直市場グリーンファームを事例として-	総合討論
3年2組 E会場	生物	[24E01] 佐藤秀樹 バングラデシュ・シュンドルボンにおけるマングローブ保全を通じた天然蜂蜜採取の取組に関する実践報告	[24E02] 溝田浩二 昆虫をめぐる「深い遊び」に環境教育のヒントを求めて	[24E03] 高橋正弘 ツシマヤマネコ保護をめぐるフィールド実習を通じた学生の学びについて	総合討論
3年3組 F会場	奨励賞審査	[24F01] 丸谷聡美 ため池のある農村地域におけるESD事例	[24F02] 清水日香里 学生主体による大学不在地域における地域連携型実践的環境教育	[24F03] 門田奈々 情報量理論を応用した自然体験学習の効果測定	総合討論

8月24日(土) 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
1年1組 A会場	ESD	[24A04] 林 美帆 新潟水俣病・公害スタディツアー2018 参加者および地域の学び	[24A05] 大島順子 水俣における集客交流事業を担う市民組織の設立と発展経緯	[24A06] 秦さやか 都市河川神田川と小学校の環境学習の取り組み	総合討論
1年2組 B会場	環境教育	[24B04] 植田善太郎 小豆島「星くずの村」実験学校で行う環境教育	[24B05] 鶴田怜志 水循環を題材とした環境教育プログラム及び教材の検討～実践事例を踏まえて～	[24B06] 和田 薫 博物館やビジターセンターと連携した環境教育の実践～中学校における地域の特色を生かした生物多様性の体験学習プログラムの開発～	総合討論
1年3組 C会場	教科教育	[24C04] 栗原 清 生活科におけるESD—新学習指導要領を見据えて—	[24C05] 櫻井航平 中学校理科において環境教育はどのように扱われているか 単元「科学技術と人間」と「自然と人間」の実施時間数と教師の単元観に着目して	[24C06] 鈴木隆弘 社会科・公民科におけるESDの展開—SDGs、新学習指導要領をふまえて—	総合討論
3年1組 D会場	生物多様性	[24D04] 東 照晃 生物多様性保全に関する学習活動に見られるジェンダー差—かくれたカリキュラムとエコフェミニズムの視座を通して—	[24D05] 安部尚子 図鑑づくりを目的としたたんぼの生き物調査	[24D06] 中野智保 高校生による野生動物保全に向けた生態調査の実践～みんなで守ろう！城南のトウホクサンショウウオ～	総合討論
3年2組 E会場	手法 ・倫理	[24E04] 楠美順理 学際的環境教育のための討論型教育手法の検討	[24E05] 渡辺理和 合意形成プロセスにおける環境教育の役割と課題—環境倫理学の視点からの考察—	[24E06] 丸谷聡子 兵庫県環境体験事業における実践研究～環境教育コーディネーターの視点から～	総合討論
3年3組 F会場	奨励賞審査	[24F04] 許 容瑜 環境教育法施行後の台湾における学校環境教育の評価～小・中学校の環境教育と児童・生徒の環境意識の関係性に注目して	[24F05] 中田有哉 屋外教育におけるM系列変調超音波を用いた頭部方向測定手法の実装および評価	[24F06] 橋本康作 屋外教育における小型カメラを用いた頭部方向検出	総合討論

8月24日(土) 11:00~11:55

会場	テーマ	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
1年1組 A会場	ESD	[24A07] 原子栄一郎 ESD考:「個人的な体験」を踏まえて	[24A08] 野口扶美子 ポストGAP、SDGsのための教育—地域の視点から—	[24A09] ニノ宮リム さち 持続可能な社会を創る「対話」の力とは	総合討論
1年2組 B会場	環境教育 授業実践	[24B07] 細田直人 茨城県霞ヶ浦環境科学センターにおける水環境学習の効果—湖上体験スクール実施前後の児童の環境保全意識の変容に着目して—	[24B08] 本庄 眞 指標生物を使った小学校の環境学習の評価手法	[24B09] 羽生一予 土壌マイクロモリス作成イベントにおける子どもの土壌に対する見方や捉え方の実態とその変化~土壌の生成過程や役割りを学んだ幼児・小学生の場合~	総合討論
1年3組 C会場	生物多様性・給食	[24C07] 小松裕幸 企業緑地を活用した企業の生物多様性教育の実践	[24C08] 杉本史生 地域と連携した在来作物の保全と意識啓発—静岡市井川地区における実践から—	[24C09] 石川伸次 少子高齢社会における学校給食センターの役割に関する研究(1)	総合討論
3年1組 D会場	体験型環境教育	[24D07] 畑田 彩 PBL 授業「サイエンス・コミュニケーション」の実践報告Part2—評価編—	[24D08] 島 麻希子 体験型環境教育の意義と「体験の機会の場」の活用	[24D09] 中村拓海 小学校の総合学習での環境教育における体験型プログラムの効果	総合討論
3年2組 E会場	生物多様性	[24E07] 仙田 考 園庭環境における「アジトスペース」の展開と可能性	[24E08] 坂井宏光 湿原・ビオトープのタンチョウの保護活動と環境教育に関する研究	総合討論	
3年3組 F会場	奨励賞審査	[24F07] 能塚康介 りんご並木をめぐる「モノガタリ」の形成と教育的価値に関する研究			

8月24日(土) 12:45~13:25

会場	テーマ	12:45~	13:00~	13:15~	
1年1組 A会場	防災教育	[24A10] 秦 範子 コミュニティ・レジ リエンスを高めるた めの防災学習の意義 と課題 一鬼怒川水 害後の住民自治組織 の取り組みを事例に —	[24A11] 山崎博史 大学生の河川景観の 認識力と防災教育	総合討論	
1年2組 B会場	環境教育 史	[24B10] 飯沼慶一 環境教育史から見た 生活科と遊び科・散 歩科	[24B11] 根本 徹 乳幼児期の環境体験 に関する研究—大正 自由教育運動から見 直す—	総合討論	
1年3組 C会場	現代的課 題	[24C10] 杉浦公昭 辺野古の米軍新基地 建設を認めない沖縄 の民意に学んで	[24C11] 遅 凱元 リニア新幹線問題に 関する周辺地域住民 の意識と学習につい て	総合討論	
3年1組 D会場	環境読本	[24D10] 鈴木榮一 環境学習施設ハンド ブックへの期待とノ ウハウの共有につい て	[24D11] 酒井佑輔 ブラジルアマゾンの 日系移民による自然 観~「胡椒」表象の 歴史的変遷を踏まえ て~	総合討論	
3年2組 E会場	動物園	[24E10] 原賀いずみ 動物園教育の草分け、 到津林間学園を核と した児童文化と環境 教育の歴史研究とそ の課題	[24E11] 齊藤千映美 動物園を拠点とする 途上国 ESD の可能性 と課題	総合討論	

8月25日(日) 9:00~9:55

会場	テーマ	9:00~	9:15~	9:30~	9:45~
1年1組 A会場	概念	[25A01] 三木柚香 環境教育の理念的枠組みの構築を目指して	[25A02] 大島英樹 環境教育の基礎教養を考える	[25A03] 須田玲子 地域循環共生圏構想に向けた教育 —地球環境と人間の関わりの理解がもたらす「真の豊かさを創造する教育」を求めて—	総合討論
1年2組 B会場	森林	[25B01] 板倉浩幸 森林ESDの小学校の総合的な学習の時間及び理科への導入の研究	[25B02] 近藤順子 滋賀県における小学生を対象とした森林環境学習の教育効果—地域への愛着との関係から—	[25B03] 長濱和代 明治神宮の森の活用と教育実践	総合討論
1年3組 C会場	環境思想	[25C01] 新田和宏 SDGsのための環境教育	[25C02] 森谷昭一 環境教育のための身体論~自然と関わる技能の伝達~	[25C03] 小野瀬剛志 資本主義的経済システムの把握が批判的環境教育論にもたらすもの	総合討論
3年1組 D会場	環境学習	[25D01] 宗田勝也 高校生と進める「環境」学習・研究の発展と課題—総合地球環境学研究所の取り組みを手がかりに—	[25D02] 牛崎 景 大学生の身近な野鳥に関する知識・経験の現状	[25D03] 佐藤敬一 小学校の環境教育への協同学習の導入	総合討論
3年2組 E会場	放射線教育	[25E01] 大内成美 家庭科における原子力・放射線教育に関する研究	[25E02] 後藤 忍 文部科学省の放射線副読本の内容分析	[25E03] 藤岡達也 教育行政における原子力発電所事故及び放射線教育取扱いの経過、現状と課題	総合討論

8月25日(日) 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
1年1組 A会場	ESD	[25A04] 阿部 治 ESDをベースにした 中山間地における持 続可能な地域づくり (1) —ESDのもつ 地域創生力—	[25A05] 朝岡幸彦 ESDをベースにした 中山間地における持 続可能な地域づくり (2) —遠山郷プロ ジェクトにおける実 践の基本構造—	[25A06] 小玉敏也 ESDをベースにした 中山間地における持 続可能な地域づくり (3) —遠山郷にお ける学校と地域の協 働実践—	総合討論
1年2組 B会場	エネルギ ー	[25B04] 井上真理子 高等学校の農業教 育、森林・林業教育 における木質バイオ マスの扱い	[25B05] 前川洋平 木質バイオマスのエ ネルギー利用に関す るテキスト開発と授 業実践—中学校、高 等学校、大学を対象 に—	[25B06] 杉江 瞬 教育現場におけるメ タンハイドレートの 合成研究	総合討論
1年3組 C会場	SDGs	[25C04] 奥津憲人 中高生によるFSCマ ーク認知度調査&環 境教育アンケートの 報告	[25C05] 林 浩二 植物園のESD/SDGs への取り組みの国際 動向	[25C06] 岩本 泰 フェアトレードタウ ンで考えるSDGs—東 海大学教養学部 SOHUM「アースミュ ージウム」プロジェ クトより	総合討論
3年1組 D会場	発達論	[25D04] 春田一成 屋外教育における集 団頭部加速度解析に よる授業への興味と の相関について	[25D05] 八幡直輝 長距離歩行イベント が子どもの「生きる 力」に及ぼす影響	[25D06] 笹瀬雅史 登山活動の継続と環 境教育の課題	総合討論
3年2組 E会場	生物多様 性	[25E04] 中村俊哉 学校ビオトープのあ る小学校における生 物多様性教育のカリ キュラム研究	[25E05] 加藤美由紀 生物多様性保全に関 する教材作成につい て—外来植物を考え る教材を目的として —	[25E06] 飯尾美行 「地球にやさしいエ ンジニア」の育成を 目指した工業高校に おける「SDGs」総合 討論	総合討論
3年3組 F会場	英語1	※英語報告部会(10:15~12:00)プログラムについては、15頁をご参照ください。			

8月25日(日) 11:00~11:55

会場	テーマ	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
1年1組 A会場	自然	[25A07] 山口雪子 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究(5)	[25A08] 白石幸江 青木ヶ原樹海エコツアーにおけるエコツアーガイドの工夫とその評価	[25A09] 望月嘉人 人口密集域における里川像~地域フォーラムでの結果を踏まえて~	総合討論
1年2組 B会場	ごみ問題	[25B07] 堀 孝弘 脱プラ、減プラに向けた大学生向けリデュース教育の実施と成果	[25B08] 花嶋温子 ごみ処理施設に附設された環境学習施設の将来展望	[25B09] 染谷 侑 ごみ分別啓発に関する環境教育メニューの効果検証の試み~実施地域別の比較を含めて~	総合討論
1年3組 C会場	環境意識	[25C07] 楊 婕 中国武漢市における大学生の環境意識調査事例	[25C08] Ong Thi Ha Trang ベトナムと日本の小学校における環境教育の比較	[25C09] 野村一貴 環境形成過程における相互関係性への認識がまちづくり活動に与える影響	総合討論
3年1組 D会場	ワークショップ	[25D07] 高橋敬子 日本における気候変動教育能力開発プログラムの開発に向けて一地域でできる効果的な気候変動対策を考えるワークショップの結果より一	[25D08] 阿部健一 みんなで創る展覧会:国連こども環境ポスターを用いたワークショップ	[25D09] 飯塚宣子 人類学の知を子どもと共有するために一狩猟採集民バカに学ぶワークショップを通して一	総合討論
3年2組 E会場	動物園教育	[25E07] 高畠 駿 親子のための動物園教育プログラムに関する研究(1)	[25E08] 小松 薫 動物園における展示方法の教育的意味	[25E09] 河村幸子 SDGs のための大学生による動物園教育プログラム開発	総合討論
3年3組 F会場		※英語報告部会(10:15~12:00)プログラムについては、15頁をご参照ください。			

8月25日(日) 12:45~13:25

会場	テーマ	12:45~	13:00~	13:15~	
1年1組 A会場	原発事故	[25A10] 大沼祐里 原発事故後の福島における「森のようちえん」の課題と可能性	[25A11] 田開寛太郎 福島原発事故後の自然体験活動安全管理ガイドラインに関する研究	総合討論	
1年2組 B会場	防災	[25B10] 桑原智美 災害教育としての野外炊事の実践的意義に関する研究	[25B11] 海老原誠治 学校給食において、防災備蓄食糧を活用した食品ロス 対策プログラムの実践	総合討論	
1年3組 C会場	東日本大震災	[25C10] 小山こまち 東日本大震災による水族館教育の変遷に関する研究—アクアマリンふくしまを事例として—	[25C11] 佐々木 啓 三陸復興国立公園内ビジターセンターの現状と課題	総合討論	
3年1組 D会場	森林	[25D10] 遠藤秀平 基督教独立学園高等学校における森林教育の授業づくり	[25D11] 中村和彦 五感を通じた森林体験活動の振り返りに関する映像教材の活用：甲斐市立竜王小学校5年「森からみえる」の事例	総合討論	
3年2組 E会場	エコツアーリズム	[25E10] 坂本明日香 メキシコ共和国における環境保全型農業による鳥類保護とエコツアーリズム	[25E11] 中澤朋代 SDGs の教育とエコツアーリズムに関する一考察	総合討論	

<ポスター発表> (☆は高校生の発表です)

※高校生ポスター及び英語ポスター以外は、筆頭者として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

日時：8月24日(土)・25日(日)の9:00~13:45 (コアタイム=両日共12:00~12:45)

会場：北杜市立甲陵高等学校 体育館

- P01☆ 御園生真美・坂尻巴奈・加藤薫子：外来生物に対する小学生～高校生の意識高揚に関する研究Ⅱ
- P02☆ 御園生真美・磯部萌香・井手優菜・乙黒愛理：廃熱で発電!? スターリングエンジン!
- P03☆ 衆島和帆・宮永歩・笠井利浩・近藤晶・三寺潤：離島の雨水生活体験を通じて変わる日常生活～実践者と参加者の視点からみた評価～
- P04☆ 中野智保・針生奈都希・大和優月・佐藤健彦・後藤優雅・角田陽向・内海ヒカル・渋谷太陽・阿部航汰：仙台城南高校に生息する野生トウホクサンショウウオの生態調査～知ることは守ること!～
- P05 梶浦恭子：自然環境に関わる乳幼児と保育者としての役割
- P06 村松陸雄：環境学に対するイメージと期待に関する探索的検討
- P07 大庭茂美：手作りの環境学習支援 ― 苺の走出枝(ストロン)繁殖作業を事例に―
- P08 桜井良：宇宙飛行士トレーニングを応用した大学生のためのリーダーシップ・フォロワーシップ育成プログラムの開発と評価
- P09 濱田栄作：島の水環境を題材にしたプログラムの開発と実践
- P10 奥芝理那：奈良県における森林環境教育のプログラムモデルの開発とその教育効果の検証
- P11 松重摩耶：大学講義における環境教育の質的転換の試み―授業方略概念図の作成―
- P12 齊藤由倫：環境データを扱った教育による受講者の科学に対する自己効力感の変容
- P13 高橋ゆかり：持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶためのかるたの実践とその評価
- P14 北村芽唯：親子関係から見る子供の自然離れ：秋田県中山間地域における事例より
- P15 藤崎健一郎：エコスクールパイロット・モデル事業の展開に関する研究
- P16 安富勇希：浜松市における多様な若者の社会参画を促すSDGs教育プログラムの実践
- P17 小泉伸夫：「強み」を活かした連携で食育イベントを作る
- P18 鎌田洋平：秋田県八郎湖流域における、NPO法人はちろうプロジェクトの環境学習プログラムの実践
- P19 岩西哲：ラムサール条約登録湿地「宍道湖」を舞台とした環境学習の実践―「ラムサール探偵団」の取り組み―
- P20 藤野裕弘：地域理解を深めるための環境教育プログラムの検討～学校周辺マップ作成の試み～
- P21 中岡禎雄：尼崎ネイチャークラブによる10年間の循環環境学習の成果と課題～ESDの視点から～
- P22 原田千寛：貿易ゲームによるキーコンピテンシー育成の有効性～異質な集団で交流する力を中心に～
- P23 志摩侑未：小学校の教科教育を通じた食育の実現可能性～家庭科教育と第3次食育基本計画の対応分析～
- P24 山崎陽：阿賀野川流域で広がる「地域の光と影」をテーマとした教材づくりを通じたESD-SDGsの取組
- P25 田中卓也：東日本大震災における幼児対象とした防災教育のあり方と課題
- P26 Wei-Ling Liu: Developing the core competency of the twelve-year compulsory education into the Environmental Education Curriculum-Taking Taichung Metropolitan Park as an Example
- P27 Chiao-Yun Chang: Tree of Life Course in Taichung Metropolitan Park - Analysis of Student Learning Effectiveness

